

点訳朗読(音訳)奉仕員養成講座に参加してみませんか

- 日時
開校式・説明会
6月8日(月) 午後1時30分
点訳・音訳講習会
6月11日(水)～12月10日(水) 毎週(木)
午後1時～4時(全24回)
- 場所 県身体障がい者福祉センター 2階
- 内容 視覚障がい者に対する、書籍などの点訳、音訳によるサービスを提供するために必要な知識、技術を修得する講座。視覚障害者概論、点訳・音訳の基礎～応用。パソコンを使った電子データ作成など
- 対象 視覚障がい者福祉に理解と熱意がある人
- 定員 点訳15人、音訳15人
- 費用 無料(講習会テキストなどは実費)
- 申込期限 5月30日(土)
- 申込・問い合わせ
県点字図書館(水曜休館) ☎(383)6333
E-mail: kumashifuku@snow.ocn.ne.jp
ホームページURL: https://kumaten.jimdo.com/



1 広報きくよう4月号を朗読する別府さん
2 パソコンで音声を編集する矢野さん



優しく利用者に語りかける吉本さん

特集
あなたも始めてみませんか

誰かのためだけじゃないボランティア

「もしもし、ごきげんコールです」

そう電話をするのは「ごきげんコールの会」の吉本敬子さん(上中代)。ごきげんコールの会は、65歳以上の一人暮らしの希望者に毎週月曜、水曜、金曜に電話で安否確認活動を行うボランティア団体です。今年で設立して27年。会員は19人になりました。

誰かのためではなく
自分のためのボランティア

「この活動は誰かのためだけではなく、自分のためにしているんです。自分自身の生活にメリハリが出るようになりました」とほほ笑む吉本さん。

吉本さんは、誘われたことをきっかけに始めて7年、活動では相手の体だけではなく、心の健康状態にも気を配り、悲観的な所があれば、特に注意して傾聴しています。活動の後に気になった人は社会福祉協議会に繋ぐことで見守りの体制を担っているそうです。

私たちと声の広報を
お届けしませんか

音訳ボランティア「うぐいすの会」の皆さんは、視覚障がい者の人へ広報きくようや議会などよりなどを録音し、声で町の情報などを届ける活動を行っています。平成5年に設立し、今年で27年。現在会員は5人です。昨年の9月に録音の機械が壊れたことを機に、矢野直美さん(宮ノ上)がパソコンソフトで編集を始めました。最初は使い方が分からなくて苦労したそうですが、県点字図書館に習いに行ったり、他の音訳ボランティアに話を聞いたりして学び、以前より簡単に編集できるようになりました。

月末に最新の広報きくようが発行されると、別府重子さん(沖野)が会員の自宅へ届けます。会員はそれぞれ活動の日までに担当箇所の下読みを行います。実際の録音は毎月第一水曜日に町福祉支援センターの2階の録音室で行っており、和気あいあいとした雰囲気で行っています。

好きが誰かのためになる

別府さんは、「自分の活動が困っている人の助けになるとうれしい」と笑顔で話しました。

ごきげんコールの会では、介護保険課に提出する書類以外にも、独自の連絡ノートがあり、大事なことや連絡事項はメモをして引き継いでいきます。

「電話は、相手のことが見えないので相手の状況や様子を想像することを意識しています。電話をかけて相手を励ましたり、逆に元気をもらったりできる活動です」と吉本さんは笑顔を見せました。

ごきげんコールで活動したい人は
ご連絡ください



現在、ごきげんコールの会は、新しい会員を募集しています。興味のある人は下記までお問い合わせください。活動の見学なども受け付けています。

■問い合わせ
菊陽町ボランティアセンター ☎(232)4824

うぐいすの会の皆さんと活動をしたい人や
声の広報を聴きたい人はご連絡ください



現在、うぐいすの会は、新しい会員を募集しています。興味のある人は下記までお問い合わせください。活動の見学なども受け付けています。録音データはCDやSDカードで提供しています。家族や友人など身近に音訳を必要としている視覚障がい者の方はいませんか。詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ 菊陽町ボランティアセンター ☎(232)4824

代表の後藤タヨさん(光4町内)は、活動を続けて27年。「本を読むことが好き」と生きがいである朗読について楽しげに語りました。広報きくようを録音するときは、はっきりと読むことや間違いに注意することはもちろん、句読点に気をつけて読んでいるという後藤さん。同音異義語なども聴き手に伝わるように注釈を付けて読みます。今後も活動を続けていくためには若い人にもぜひ来ていただきたいと話しました。